

タスキに思い込め走る

市駅伝大会に66チーム



スタートは横一線。勢いよく飛び出していく選手たち（年代混合の部）。総勢305人の選手がタスキをつなぎました



一般男子の部では、最終6区でチームQPの本吉真弥さんがゴール前で追い抜き見事優勝

市駅伝競走大会が11月4日、中田総合体育館を主会場に開催されました。登米市合併5周年を記念して始まった同大会も今年で4回目です。今年、年代混合、中学生（男・女）、高校生（男・女）、一般（男・女）の7部門に過去最高となる66チームが参加。開会式では選手を代表し登米

消防Cチームの佐々木勇人さんが「最後まで全力で走りきることを誓います」と力強く選手宣誓しました。競技最長となる18・2キロを6人でつなぐ一般男子の部では、市内の福祉施設職員で構成したチームQP（キューピー）が最終6区で逆転し優勝、大会2連覇を達成しました。

「市民参加の新たな森林（もり）づくり秋・植樹祭」が、11月5日、東和町の米川森林組合が所有する森林内で行われました。この事業は県の「みやぎ環境交付金」を活用し、毎年春と秋に実施しているものです。

当日は、米川小学校の全校児童と市民約180人が参加。約1メートルの高さに成長したヤマザクラの苗木600本を一本一本丁寧に植えていきました。低学年の児童は、コナラなどドングリの種をまきました。植樹祭に参加した児童は「自分が植えた苗木が大きくなって、立派な森になるのが待ち遠しいです」と、笑顔で話していました。



植樹終了後、みんなで記念撮影

米川小児童らが植樹

次代につなぐ森づくり

市では11月5日、市薬剤師会と「災害時における医療救護活動及び医薬品等の協力に関する協定」を結びました。協定の内容は二つ。一つは、災害時に市の要請に基づき、避難所や救護所での傷病者に対する医薬品の供給・服用指導などに関する協力。もう一つは、避難所などへの一

医薬品の供給など協力

薬剤師会と応援協定

一般医薬品の優先供給と運搬・整理に関する協力です。市役所で行われた協定式には布施孝尚市長や市薬剤師会の後藤正広会長ら関係者が出席。布施市長は「災害時、市薬剤師会による避難所などへの人的・物的支援は、市民にとって大変心強いものになる」と述べました。



協定書に署名する市薬剤師会の後藤会長（右）と布施市長



東京初の民間企業出身の校長として学校運営の立て直しに大きな実績を残した藤原氏「学校運営に地域の力は絶対必要」と、会場の参加者に熱く語りました

地域の力で教育力向上

藤原和博氏迎え講演

市教育委員会では、地域社会の力を活用して学校の教育力を高めようと、10月11日に教育講演会を開きました。市内の教職員、保護者らが対象。会場となった登米祝祭劇場には約600人が参加しました。講師は、民間企業出身で元杉並区立和田中学校の校長を務めた教育改革実践家の藤原

和博氏。「つなげよう！学校と地域社会！子どもたちの未来を拓く」と題して講演した藤原氏は「これからの学校運営は学校だけではできない」と話し「子どもたちのため、地域の力を借りて先生の力を目の前の児童生徒に集中できるようにしなければならぬ」と強調しました。

見守り機能、一層強化

水道、電気検針業者と協定

地域安全協定締結

地域安全協定を締結した関係者。タッグを組んで登米市の安全安心を支えます



佐沼、登米両警察署では、電気や水道の検針のため市内毎戸を定期的に訪れる四つの事業所と、不審者や高齢者の安否確認などを情報提供する地域安全協定を締結しました。協定を締結したのは、水道の検針に当たる市水道事業所と受託業者のフジ地中情報（東京都港区）テクノ・マイ

ンド（仙台市）共同企業体、水道管の点検を手がける市管工業業組合、電気検針を行う東北電力栗原登米営業所（栗原市）です。10月8日に登米警察署で行われた協定式では、布施孝尚市長の立ち会いの下、両警察署長と各事業所の幹部が協定書に署名しました。